

令和4年度第2回 介護保険事業運営委員会 意見聴取票の取りまとめ内容について

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
1	①納得できる要因	P9 イ「認定率が50%を超える年齢が89歳」 以前の結果では88歳であったと記憶しています。寿命の延びが関係しているのかと考えられました。男女別では男性の方が92歳と高いのですが、長生きする男性は女性よりお元気なのだと思納得しました。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
2	①納得できる要因	P19 ウ「一般高齢者の約4割は新型コロナウイルス感染症予防を主な理由として外出を控えている」 担当利用者の介護者の生活状況を訪問モニタリング時に確認し、介護者の健康状況を確認している。5人のうち2人は介護への影響に注意して生活している(外出を控えていると言っている)。 ※要介護者等認定者は約6～7割外出を控えている。そのうち、施設利用者は特に外出禁止となっている。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
3	①納得できる要因	P19 イ「65歳～69歳の高齢者の半数以上が働いている」 P39 イ「介護サービスに従事する職員の半数以上が50代以上」 以上の結果は東三河、特に山間部の働き手となる若い方がいないという現実と、反面、高齢になっても農作業・自営業だけでなく事業所に雇用してもらえ、役割を得ることができるという良い面もある。介護事業所の職員も高齢化しており、65～74歳ぐらいの前期高齢者は重要な働き手である。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
4	①納得できる要因	P21 カ「生活習慣病が原因で介護が必要になる人も多い」 認知症も生活習慣病と捉える見方もあると思います。骨折・転倒も見方によっては生活習慣病とも捉えられます。介護予防を考えると、認知症や運動機能低下による転倒などは生活習慣病と捉えておいた方がよいと思います。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
5	②乖離していると感じる結果	P10 (4)年齢階層別の要介護度の割合 イ「北部圏域では若年層の約4割が重度認定者」 数字的実態は記載の通りであると思うが、分母値が小さいからこのような状態が起きているのだと思いますがいかがでしょうか？	ご指摘のとおり、北部圏域の実態を示す表現としては適切ではないと判断し、今後の資料には掲載しないこととしました。
6	②乖離していると感じる結果	P40 エ「職員の直前の学校は「高等学校」「専門学校(福祉系)」が比較的多い」 この項目は誤解を招きかねない 『介護サービスに従事する職員の直前の学校は、高等学校が最も多い』ここでいう高等学校に、地元でいえば宝陵高校の福祉科の卒業生はカウントされているのか。 このままで読めば福祉系以外の高等学校、専門学校、短期大学、大学の新卒が7割を占め介護のスキルを持たないまま就職してくるのかと読めてしまう。この直前の学校を問うことより、介護のスキルをどこで身につけて現在の事業所に勤務することになったか、または現在の事業所で働きながら介護スキルを身につけているという設問の方が回答の意味がある。 このままでは介護のスキルなしで事業所に就職している人が7割いると誤解されかねない。 求人広告に介護資格や経験を問わないなどの文章が載っている。学校に福祉の専門性を問わないような求人をしているかのように受け止められかねない。	ご指摘のとおり、「高等学校」と回答した方が何科を卒業したかは今回の調査では聞いておらず、誤解を招きかねない表現となっているため、今後の資料には掲載しないこととしました。

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
7	②乖離していると感じる結果	P11 ア「介護を必要とする原因は、年齢階級別で顕著に異なる。90歳以上は「高齢による衰弱」の割合が高くなっている」 フレイル状態になってはいるが、担当する90歳以上の要介護認定者には、自立し、自分で動ける人が増えている。ただし、活動量が低下する為、役割を与えないといけな(通所など)。	ご意見ありがとうございます。今回のアンケート調査では、介護が必要となった主な原因を複数選択させています。委員ご指摘のとおり、自分で動ける90歳以上の認定者が多くなっているということは、認定を受けた主な原因が病気やケガではないため、「高齢による衰弱」を選択するケースが多かったということではないでしょうか。
8	②乖離していると感じる結果	P10 イ「北部圏域では若年層の約4割が重度認定者」 データから北部の該当の割合は38.4%、南部の該当割合は35.6% 38.4%を約4割とし、南部と差があるように表現しているが、実際の両者の差は2.8ポイント。北部の約4割の表現も実際には1.6ポイント差がある。 北部をさらに詳しく見ると要介護5の割合や要支援2・要支援1・要介護3の数値に特徴があるようにも見える。 クローズアップして分析した情報に対する課題や解決策の検討がされないのであれば、さも課題があるような印象になるような切り抜きは避けた方がよいのでは？	ご指摘のとおり、北部圏域の実態を示す表現としては適切ではないと判断し、今後の資料には掲載しないこととしました。
9	②乖離していると感じる結果	P12 最下段【補足説明】、P16 最下段【補足説明】 「臨時的な取り扱い」を実施したことから…データが存在しない 訪問調査の全件が有効期限を延長した訳ではないのにデータが存在しない？ 「一部が未実施のため正確なデータが存在しない」ということでしょうか？	ご指摘のとおり、「一部が未実施のため正確なデータが存在しない」状況です。臨時的取り扱いで期限を延長した方は、実施していない調査は空欄でデータ入力されているため、コロナ発生以降、全体の数値に影響が出ている状況です。今後の資料では、コロナ発生以前の実数をもとに、「影響を受けなかったと仮定した令和元年以降の推計値」をグラフとして掲載することとします。
10	③深堀する必要がある設問	P10 (4)年齢階層別の要介護度の割合 イ「北部圏域では若年層の約4割が重度認定者」 これについては、北部圏域の疾病の特徴や生活習慣に影響があるのかと思いました。保健師さんが把握しているデータとの比較ができるでしょうか。また、この結果を健康の保持増進の事業に活かせると思います。	他の委員ご指摘のとおり、北部圏域の実態を示す表現としては適切ではないと判断し、今後の資料には掲載しないこととしました。
11	③深堀する必要がある設問	P23 ケ「一般高齢者の自動車運転免許証の自主返納」 年齢、居住地域との関連について分析した結果はどうだろうと思います。	自動車運転免許証の調査結果については、広域連合の介護保険事業において施策検討を行わないため、今後の資料には掲載しないこととしましたが、調査結果を構成市町村に展開し、今後の市町村の高齢者施策の検討に活かしていきます。
12	③深堀する必要がある設問	P27 キ「中心介護者の離職」 介護者の年齢・性別・正規か非正規かとの関連についてはどうですか。	中心介護者の性別については男女比がおおよそ1.2となっています。 年齢については「仕事を辞めた」と回答した介護者のうち60～70代が6割以上を占める結果となりました。このため、「介護のために辞めざるを得なかった」場合と「定年退職を機に介護に専念する」場合との線引きが難しく、今回の調査では現状これ以上課題の深堀りは難しいと判断し、今後の資料には掲載しないこととしました。 正規・非正規については調査項目に入れておらず深堀りすることはできませんでした。

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
13	③深堀する必要がある設 問	P22 キ「健康のために今後取り組みたいこと」 ク「普段の生活の中で、「してほしい手助け」と「したいと思う手助け」の比較」 男女別に集計したら差が出て、次の取り組みに繋がるのではないかと。	調査結果をさらに深掘りしたところ、男女とも上位回答に大きな差は見られませんでした。また、男女で回答率に差が出た回答は、「今後取り組みたいこと」では、「お酒を飲まない(男性18.3%、女性4.4%)」、「してほしい手助け」では、「簡単な力仕事(男性4.7%、女性10.2%)」、「したいと思う手助け」では、「簡単な力仕事(男性35.8%、女性5.2%)」、「買い物(男性12.6%、女性22.5%)」などがあげられました。
14	③深堀する必要がある設 問	P35 ク「人生最期を迎える場所への希望」 地域別の結果に差があるかもしれません。(例えば都会と田舎)	調査結果をさらに深掘りしたところ、南部圏域よりも北部圏域の方が「自宅」と回答する割合が高い結果となりました。今後の資料には、「東三河広域」「南部圏域」「北部圏域」の回答グラフを掲載することとします。
15	③深堀する必要がある設 問	P18 「多世代同居が比較的多い東三河の状況を表しています」の記述について 比較対象がはっきりしていない考察になっている。「全国平均と比べて」ならばより理解できるかと思いません。	今後の資料に、「総世帯に占める各世帯の割合」について全国平均・愛知県平均・東三河平均の3つのデータを掲載し、「東三河地域は多世代同居が多い」という結論に至る根拠について記載することとします。ご指摘ありがとうございます。
16	③深堀する必要がある設 問	P21 オ「うつ」や「閉じこもり」のリスクが高い一般高齢者が増加」 結果の考察が分かりにくい	特にポイントの差が大きかった「うつ」「閉じこもり」「転倒」について、「外出を控えている」「外出を控えていない」に分けて、生活機能低下のリスク該当者の割合を算出したところ、「外出を控えている」の方がすべての結果においてリスクが高いことが分かりましたので、結果の考察とグラフを今後の資料に掲載することとしました。ご指摘ありがとうございます。
17	③深堀する必要がある設 問	P26 オ「施設等への入所・入居の検討状況」 介護度によって意識が違うのではと推察されますので、介護度別グラフがあった方がよいと思います。	ご意見ありがとうございます。調査結果を深掘りしたところ、「検討していない」は「要支援1」が最も多く、「検討している」は「要介護1」が最も多く、「申し込みしている」は「要介護2」が最も多い結果となっており、介護度が上がるにつれて、施設入所への意識や行動が変化する結果となりました。
18	④9期計画に向け注視・深 堀する必要がある調査結 果	P21 オ「うつ」や「閉じこもり」のリスクが高い一般高齢者が増加」 「うつ」や「閉じこもり」のリスクが高い一般高齢者が増えていることが気になります。要介護になる方が増えることにつながり、一般高齢者への対策が必要と思います。地域での活動が活発に行われることを期待します。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
19	④9期計画に向け注視・深 堀する必要がある調査結 果	P30 シ「中心介護者が望む支援」 相談窓口やリフレッシュの機会、交流の場などを望んでいて、社会との交流が減っていると感じられます。介護者を社会の中で孤立させない支援が必要であると思います。	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
20	④9期計画に向け注視・深 堀する必要がある調査結 果	P48 ケコ「外国人材の受入れ後は日本語コミュニケーション能力が課題」 外国人材材に対するコミュニケーションなどの学習の機会はどのようにしているのでしょうか。	基本的には、受入事業所それぞれがコミュニケーション作法や日本語学習などの研修機会を設けているものと存じますが、愛知県は、受入事業所の外国人材指導者向けに特化型セミナーを開催しており、介護現場におけるやさしい日本語の座学やグループワーク形式の交流会などにより、指導者の技術向上を図っています。

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
21	④9期計画に向け注視・深掘りする必要がある調査結果	<p>P33 オ「認知症対策として予防教室の開催や早期診断の実施が挙げられる」 「図表2-32認知症の方やその家族に対して必要と思う支援」</p> <p>蒲郡市は認知症家族の会の参加人数が少ない。 ⇒新規事業の検討にあたり、他市との支援内容の違いや、参加者の声を深掘りするとよいと思います。</p>	ご意見ありがとうございます。市町村に調査結果を展開するとともに活動内容検討の参考にさせていただきます。
22	④9期計画に向け注視・深掘りする必要がある調査結果	<p>P23 ケコ「自動車運転免許証の自主返納について」</p> <p>公共交通機関の整備が支援策としてあがっていますが、山間部においては生活圏(中学校区ぐらい)においても、買い物・病院など必要な機関がそろわないことから、生活していくために交通手段の確保は必須と思われます。既存のものだけでなく、新たな方策を考えるべきではないでしょうか。</p>	自動車運転免許証の調査結果については、広域連合の介護保険事業において施策検討を行わないため、今後の資料には掲載しないこととしましたが、調査結果を構成市町村に展開し、今後の市町村の高齢者施策の検討に活かしていきます。
23	④9期計画に向け注視・深掘りする必要がある調査結果	<p>P54 ウエ「精神科退院後の高齢者受け入れについて」</p> <p>精神科退院後受け入れできる体制がある施設が2割にとどまっていることは、精神疾患・精神障害に対する社会の理解が不足していると感じる。精神科の長期入院も問題になっており、入院→地域生活への取り組みをすすめるうえで施設職員についても教育啓発の機会が必要と思われる。また、地域包括支援センターなどへの精神保健福祉の配置なども検討してはどうかと思われる。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
24	④9期計画に向け注視・深掘りする必要がある調査結果	<p>P22 キ「健康のために今後取り組みたいこと」 ク「普段の生活の中で、「してほしい手助け」と「したいと思う手助け」の比較</p> <p>P30 ス「現在利用している「介護サービス以外」の支援・サービスと今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの比較</p> <p>P35 ケ「一般高齢者が今後充実を望む施策」</p> <p>集計結果に出ていないが、アンケートの設問「あなたが普段の生活の中で手助けして欲しいことはありますか」「以下のような活動にどのくらいの頻度で参加していますか」の結果と合わせて表示することで、支える側と支えられる側の、マッチングが見えてくるのではないのでしょうか。</p>	ご指摘のとおり、掲載していなかった「どのような活動に参加していますか」の集計結果を掲載するとともに、「手助けして欲しいこと」の集計結果も合わせ市町村に展開し、需要と供給に合った支援策の検討に活かしていきます。
25	④9期計画に向け注視・深掘りする必要がある調査結果	<p>P26 オ「施設等への入所・入居の検討状況」</p> <p>P34 キ「人生最期の医療・療養について、家族などや医療介護関係者との話し合い状況」</p> <p>P35 ク「人生最期を迎える場所への希望」</p> <p>P34で話し合ったことが有る人と無い人で「入所を検討しているか」「最期を迎える場所」の違いが見つけられるかもしれません。今後の人生会議の推進に役立つ差があるとよいと思います。</p>	調査結果をさらに深掘りしたところ、「話し合ったことがある」×「入所の検討」と「話し合ったことがある」×「最期を迎える場所」のどちらも結果に特徴的な差異は見られませんでした。
26	⑤その他	<p>P17 1(2)「各種アンケート調査の実施目的と回収結果」</p> <p>高齢者等実態把握調査への有効回収率が高く、多くの方が協力的と感じます。介護保険事業への期待も大きいのかもしれません。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
27	⑤その他	<p>P33 カ「高齢者の約8割は「ACP」の言葉を知らない」</p> <p>知っている高齢者が少なく驚きました。国がPRしていましたが関心が上がらなかったという結果と考えました。その割には次ページで半数くらいは人生最期の医療について話し合っていたので「ACP」という言葉は知らなくてもいいのだとも感じます。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
28	⑤その他	<p>P36 コ「サービスの充実と介護保険料のバランスについての考え」</p> <p>要介護認定者は40.2%が今の水準でよいと回答しており、利用しているサービスに満足されていると思いました。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
29	⑤その他	<p>東三河広域連合設立の意義</p> <p>広域連合の施策を考えるうえで地域への対応がポイントになる。北部圏域・南部圏域の2区分では図表1-8、図表1-11で視点での対策の将来の変化で両者の差異はみられる。こうした地域差に着目した調査項目が見られない。第8期に企画した「中山間地域のケアマネジャーの状況調査」のような「東三河は一つ」ではなくきめの細かい地域の問題を加えていくことが広域連合には必要ではないかと思う。ただし、意見聴取の2つ目に東三河全体域の合計であり、実際の現場との乖離している事柄を期待しているが、現状との差異ではなく、地域差を意識した調査があってもよいのではないか。</p>	ご意見ありがとうございます。年度末にかけて、構成市町村別に地域診断を実施する予定であり、東三河全体ではなく、地域差を意識した調査や分析の実施に努めていきます。
30	⑤その他	<p>P44 「(2)外国人材の受け入れについて」</p> <p>各設問が外国人受け入れの現状と課題を挙げている。状況として外国人材の受け入れは喫緊の課題となっている。</p> <p>外国人材の受け入れを検討しない。必要性やメリットを感じない事業所の理由が受け入れている事業所の課題とも似通っている。そこで逆に受け入れている事業所のメリットを挙げてみる。この視点でアンケートをとってみることも意味があるのではないか。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の調査の参考にさせていただきます。
31	⑤その他	<p>北部圏域の設楽町、東栄町、豊根村は国や県の調査結果の10年以上先が現実となっていると考える。人口の減少、高齢化率は増え、高齢者世帯・高齢者の独居がどんどん増えている。</p> <p>介護が必要になった場合は、在宅での生活が困難となり施設入所を選択する方は多い(本人が在宅での生活を望んだとしても)。以前は入所待ちする方が多かったが、ここ数年は希望すればすぐ入所できる。要介護3以上で在宅生活する方はどんどん少なくなっていく。</p> <p>そのため、訪問介護や訪問看護などの需要は少なく、事業所自体が継続していくことが厳しい状況となっている。また、独居の方の場合、要介護度1・2の段階でも認知機能の低下とともに地域の方の不安が大きくなり住み続けることが困難となってしまう。要支援になる前の対応が必要であり、住民の意識付けが重要。</p> <p>介護サービスを利用しながらも地域の支え合いや見守りで少しでも長く在宅生活ができるような地域が実現できるとよい。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
32	⑤その他	<p>P17 「(2)各種アンケート調査の実施目的と回収結果」</p> <p>要介護等認定者ニーズ調査の標本数・有効回収数・有効回収率の計算があわないと思うのですがどうでしょうか。</p> <p>例えば豊根村 標本数50 有効回収数80 有効回収率70.0%となっていますが…？</p>	要介護等認定者ニーズ調査の標本数と有効回収数が第8期のデータのままになっておりましたので修正いたします。ご指摘ありがとうございます。

No.	項目	質問・意見(要約)	意見に対する広域連合の回答
33	⑤その他	<p>P34 キ「高齢者の約半数は人生最期の医療について話し合ったことはない」 P35 ク「人生最期を迎える場所への希望」</p> <p>高齢者の4割以上が自宅で最期を迎えたいという希望があり、高齢者の約半数が人生最期の医療について話し合ったことがないという結果を踏まえて、エンディングノート等についてのアプローチもあり、訪問看護から何か地域の方への話をもつ機会を積極的に提供していく必要があると強く感じております。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
34	⑤その他	<p>P46 カ「外国人材の受入れを検討しない事業所の約3割が必要性やメリットを感じていない」</p> <p>少子高齢化の進展で介護人材不足を補うには、生産性向上もありますが、外国人材の活用とICTの活用しかないと思います。優秀なEPA候補生を見ている私にとって、この結果は事実であってもとても残念です。事業所のBCPを考えていく上で、今後上記2点は必須となっていくでしょう。</p>	ご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。